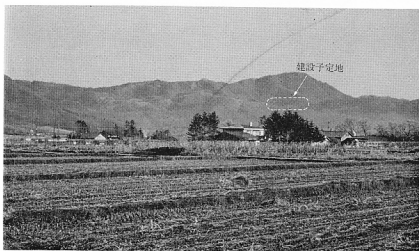
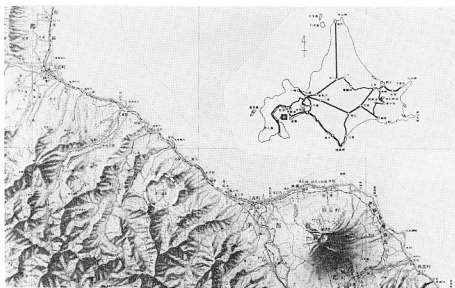


建設がはじまった森地熱発電所

川村 政和(地殻熱部) ・ 正井 義郎(総務部)
Masayori KAWAMURA Yoshiro MASAI

かねてから開発中であった森地熱発電所が いよいよ今春から発電部門の本格工事にとりかかれる。場所は北海道の駒ヶ岳から西北西約20kmに位置する 濁川温泉である。この温泉は直径約2.5kmの五角形をなす濁川盆地の内にあり 温泉孔数は約90孔 最高泉温は90℃に近い。地質調査所はこの地域の開発の有望性に着目し昭和42・43年度に地質調査を行った。その後日本重化学工業(株)は昭和47年から 地熱開発のための基礎調査を開始したが 翌48年には再び地質調査所

が全国地熱基礎調査の一環としての調査を実施している。深度700~2,400mの5本の生産井を有する蒸気生産部門は日本重化学工業(株)から 事業継承を受けた道南地熱エネルギー(株)が受け持ち 又 出力5万kW計画の発電部門は 北海道電力(株)が担当するという体制で 昭和57年11月に予定されている北海道初の地熱発電の運転開始を旨とし 建設が進められている。



濁川盆地の位置

写真1
濁川盆地内より 北東・坊主山を望む。発電所は その中腹に建設される。

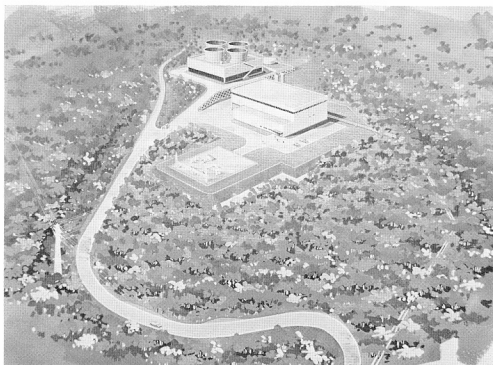


写真2 森地熱発電所の完成予想図。冷却塔がこれまでと異って一列に並んでいないのが特徴である。

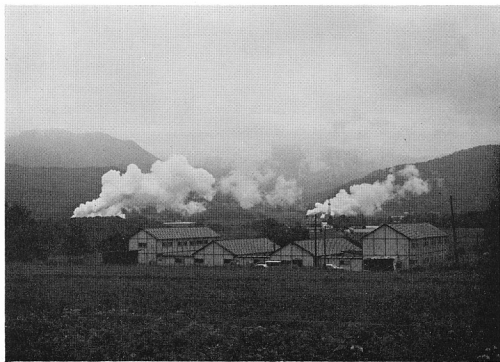


写真3 盆地の北側からみた生産井基地。左側がD基地 右側がF基地。



写真4 盆地内の北部にある地熱変質帯 温度はあまり高くないが いたるところでガス噴出がある。

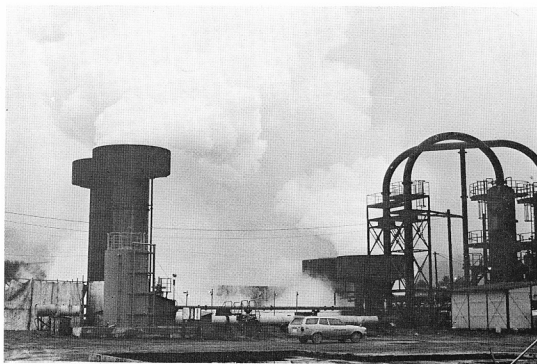


写真5 F基地における生産試験の様子。



写真6 中学校のそばにある噴気孔。

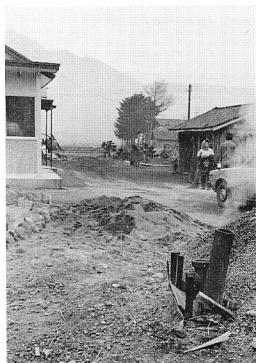


写真7 噴気及び地熱が農家の廻りに及んで（白く変質している部分）熱で雪をとかしてしまふ。



写真8 農家の庭先にある噴気地。工事用におかれた砂が蒸されて 砂湯のようになっている。